

課題／目的

人類が深刻化する気候変動をはじめ様々な課題を克服して持続可能な発展を成し遂げるためには、一人ひとりが社会の課題と向き合い探究するとともに、自らの行動を変革し社会に働きかけていく必要がある。

環境・経済・社会の三側面が調和した、持続可能な発展への移行を目指すSDGsへの貢献を目的とする「持続可能な開発のための教育(ESD)」の推進枠組みのもとで、重点取組として脱炭素の実現に資する地域のESD活動を推進するため、第2期ESD国内実施計画に記載されるネットワークの強化を分担し、ESD推進ネットワークのハブ機能を持つ、全国・地方ESD活動支援センターを運営する。

【エビデンス】

- ESDの新たな国際推進枠組み「持続可能な開発のための教育：SDGs実現に向けて（ESD for 2030）」（2019年12月 第74回国連総会承認）
- ESD for 2030を踏まえた「我が国における『持続可能な開発のための教育(ESD)』に関する実施計画(第2期ESD国内実施計画)」（2021年5月 持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議）
- 「地域脱炭素ロードマップ」（令和3年6月 国・地方脱炭素実現会議）

インプット

人員：環境教育推進室担当者、地方環境事務所担当者、文部科学省国際統括官付担当者
予算：H30年度205百万円 R1年度132百万円 R2年度132百万円 R3年度127百万円

アクティビティとアウトプット

1. ESD実施の支援体制を全国に展開する。
センターは、地域ESD活動推進拠点等と連携しながら、地域での脱炭素に資する効果の高いESD活動を重点的に支援し、全国への展開に向けた取組を進める。
2. ESD推進ネットワークのハブ機能を果たすため、地域ESD活動推進拠点を主な対象として、オンラインを積極的に活用しながら、情報発信・相談対応・ネットワーク形成の場づくり等により拠点機能発揮を支援。
指標 情報発信数(閲覧数)、相談対応(企画相談、講師紹介、アドバイス)件数、ネットワーク形成の場づくり数、全国フォーラムの参加者数・評価
目標 時宜を捉えた情報発信、常時の相談体制/対応の充実、セミナー等参加者数の増加。全国フォーラム参加者の大半の理解を増進する。参加者の過半数が自らのネットワークを広げる。
3. ネットワークの効率的運営、ネットワークによる活動
(1)情報収集に地域ESD活動推進拠点を活用
アンケートによる情報収集・共有 1回/年
(2)有識者の助言を得る企画運営委員会の開催 2回/年
(3)全国ユース環境活動発表大会の開催による、ユースの活動の促進
指標 応募チーム数
目標 全国の高等学校の半数程度に達するまで増加させる。

【エビデンス】

1. 地方ESD活動支援センターにおける活動実績、全国フォーラムの開催実績及び参加者アンケート
2. 全国ユース環境活動発表大会の開催実績 等

インパクト

地域のESD活動が活発化し、学習の機会や学習者が増加することにより、SDGsの達成に向け、脱炭素意識等の醸成と行動変容が進むとともに、多様な主体間連携を基盤に地域脱炭素を担う人材が育成される。

※他のESD推進活動の効果との切り分けは困難。

アウトカム

上記のセンター活動の働きかけにより、地域ESD活動推進拠点が他団体を支援する。ネットワーク内外による交流や実践活動により多様な主体間の連携が促進され、学校教育・社会教育・職業訓練・インフォーマルな領域で多様な学び合いの場が創出される。

支援例：情報提供、相談対応、共催、教材開発サポート、講師派遣等

実践例：実践者育成を目的とした研修・交流等

【エビデンス】

地域ESD活動推進拠点へのアンケート結果（研修等実施、他団体の支援内容等） 等